



発行日：令和2年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第11回川部会まとめの会を開催しました！

川部会まとめの会では、今年度の活動をふりかえり、次年度に向けて取り組みたい内容について話し合いを行いました。また、市民部会が主導し、矢作川を巡るバスツアーの開催を来年度に予定しています。そのバスツアーで他の地域部会に紹介したい事柄や場所について、川部会の意見をまとめました。



日時：令和元年12月17日（火）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室

参加者：15名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度の活動のふりかえりと次年度の目標について



◆矢作川流域圏年表の作成

今年度は矢作川流域のこれまでの活動をふりかえり、矢作川流域圏年表の作成を進めてきました。まとめの会では、現段階の案を確認し、川部会メンバーが必要と考える追加及び変更項目の検討を行いました。この中で矢作川研究所へのヒアリングが求められ、12月18日にヒアリングを実施しました。

【矢作川研究所におけるヒアリング結果】

- ・魚類の外来種はアメリカナマスが問題となっており、2005年に初確認され、当初は増加傾向にあったが、近年はあまり問題となっていない。
- ・ブラックバスやブルーギルは様々な場所で確認されるが、初確認など詳細な記録はない。
- ・カワヒバリガイが2004年に確認され、2005年に急増した。2006年に激減して以降、小康状態である。
- ・ネコギギは減少しているが、詳細な記録はない。豊田市史の自然編に近年の確認状況がある。
- ・オオカナダモは1994年頃に確認され始め、2010年頃に大繁茂した。
- ・河川の形の変化については、矢作ダムができて約20年後に豊田市周辺で5m程度の河床低下が生じたことが一番強い印象である。参考文献としては環境漁協宣言があげられる。
- ・河床のアーマー化は1980～90年代に認識され始めた。

◆今年度の活動状況のふりかえりと次年度の目標について

今年度は中部電力の方や関係行政機関の参加が多くなり、積極的な意見交換を行いました。また、多自然川づくりや市民による小さな自然再生を実施した支川に赴き、支川モデル、地域連携モデルの横断的な取り組みについて、情報共有を行いました。次年度の目標としては、土砂や生物など様々な視点から川部会メンバーが考える「川の望ましい姿」について話し合い、地図上にマッピングをしたいと考えています。



2. 他部会に紹介したい事柄・場所について



市民部会の提案で話し合いが進んでいる矢作川を巡るバスツアーについて、川部会メンバーが他部会に紹介したい事柄・場所を選定しました。

第一候補：安永川と明治用水頭首工（安永川トンネル工事と明治用水頭首工の状況）

第二候補：矢作ダム（土砂問題について）

第三候補：家下川（支川モデルの取り組み紹介）

その他：豊田大橋周辺、乙川、越戸ダム下流部 など

これらの意見を元に、市民部会でバスツアーの内容検討を行う予定です。



3. 話題提供：22世紀奈佐の浜プロジェクトについて



愛知・川の会の近藤氏から、三重県鳥羽市答志島の奈佐の浜に集まる漂着ごみへの取り組みについて、話題提供をしていただきました。「いい川」・「いい川づくり」ワークショップでは若者が活躍しており、奈佐の浜プロジェクトの情報発信をしています。このワークショップは、2020年夏に中部地域で開催する予定となっています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の活動のふりかえりと次年度の目標について

【矢作川流域圏年表について】

- ・アユの不漁の問題は、1990年頃に顕著になり、矢作川漁協が認識し始めたのはそれ以前である。(山本)
 - ▶ 愛知県は1991年に古岸水辺公園を作り、アーマー化したアユの漁場の河床を耕耘した。そのため、アユの不漁は1991年以前からあった。矢作の環境漁協宣言に書いてあるはずだ。(近藤)
 - ▶ 1980年代頃からアユが釣れなくなり、硬くなった川底の耕耘について議論が行われ始めた。(内田)
- ・明治用水の旧頭首工ができた時期を追加すべきだ。旧頭首工に魚道を作る運動が漁協の結成の要因。(内田)
 - ▶ 旧頭首工は1909年に完成した。最初は簡易な石造りの堰堤であった。(鷺見)
- ・オオカナダモは2005年頃に問題となり始めた。1994年ごろは「繁茂」という表現でよい。(内田)
- ・環境問題については、漁協と研究者の両方の視点に分けられるとよい。(近藤)
 - ▶ カワヒバリガイは2004年に初確認、2006年に大発生した。その後大量死して減少した。(内田)
 - ▶ 一番新しい問題は2010年代の苔植物の繁茂である。漁協の有志がゴム手袋で川底の石を磨いた。(内田)
- ・河床のアーマー化は1972年以降の問題である。(山本)
 - ▶ 国交省の河床材料調査で粗粒化の傾向が出てきたのが1972年頃である。(内田)
- ・下流部の水量がわかっているならば書いてほしい。河川敷の工事後に樹林化が始まった気がする。(高橋)
- ・2007年ごろに豊田市の集中下水工事が始まった。上水道の完成後は下流の水質が変わったのでは。(光岡)
 - ▶ 豊田市に下水処理場完成後、他の下水処理場が運用停止し、広域下水道に切り替えた。(内田)
 - ▶ 2008年に豊田市の終末処理場は役割を終え、単独の下水道は流域下水道に接続した。(鷺見)
- ・環境問題として、矢作川で魚類の外来種問題は発生していないのか。(橋本)
 - ▶ 本川ではアメリカナマズが問題となっている。加茂川や古川などでは2000年頃からブラックバスやブルーギルが増加した。これらは豊田市史の自然編にまとめられている。(光岡)
 - ▶ アメリカナマズは7~8年前に大きく騒がれていた。(内田)
 - ▶ 碧南海浜水族館や矢作川研究所に外来種やネコギギについてヒアリングしたほうが良い。(近藤)
- ・川の形や土砂に関する項目をまとめたい。それに関係する樹林化や伐採も加えるとなおよい。(鷺見)
 - ▶ 河道へのインパクトや形状変更については主要な構造物に関するイベントをまとめるのがよい。(近藤)

【今年度の活動状況のふりかえりと次年度の目標について】

- ・土砂管理に関する取組みとしては、小渋ダムへの見学があてはまる。(鷺見)
- ・関係行政機関の参加として、豊田市や安城市の方々に多く参加いただけた。(内田)
- ・以前からの課題であるが、川の理想像に関する話し合いができていない。理想像をマッピングしたい。(鷺見)
 - ▶ 鳥が棲める環境、特に砂地が矢作川から減少している。生物についての話をもっとしたい。(高橋)
- ・矢作川下流部で行われている自然再生検討会などの活動状況が共有できていない。(鷺見)
- ・流域の各市が作成したプランは作成してから10年くらい経つが、その後どうなったか知りたい。(光岡)
- ・国道一号線の橋を作ったことで川の水の流れが変わり、矢作橋付近の砂浜がなくなった。一部砂浜が残っているが、そこに降りる階段がない。そのため、矢作中学校の「砂の造形」の活動場所が変更となった。(伊奈)

●他部会に紹介したい事柄・場所について

- ・河川空間の変化による生物の生息状況が変化している。過去に見た場所を改めて見返すのもよい。(近藤)
 - ▶ 自然による河川空間の変化もあるが、人為的な改変による河川空間の変化が見える場所はあるか。(光岡)
 - ▶ 豊田大橋周辺では、矢作川森林塾による河畔林の整備がある。(近藤)
 - ▶ それにより豊田スタジアムのレストランから矢作川の水が見えるようになった。その対岸では、ラグビーワールドカップにあわせて近自然河川工法も成功したが、川部会では議論できていない。(内田)
- ・今工事が進んでいる安永川も見たい。(高橋)
 - ▶ この10年で一番大きな変化は、愛知県の矢作古川の分派堰と安永川の大トンネルの工事である。(近藤)

今後の予定

■第9回全体会議

日時：令和2年2月25日(火) 14:00~16:30 場所：愛知県西三河総合庁舎



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

